



▲点灯は12月9日～平成31年1月20日まで。

庁舎周辺を彩るとじょナリエ

イルミネーションイベント「とじょナリエ」が市役所安来庁舎周辺で開催されています。安来商工会議所青年部が創立30周年への感謝を地域へ伝えるとともに未来への輝きを表現しようと企画。12月9日には点灯セレモニーが行われ、ランプ作りや豚汁の振る舞い、山陰効果団地による参加型紙芝居などが行われました。訪れた人は、約3万7千球のライトで作られた光の空間で、お互いに写真を撮りあうなどして楽しんでいました。

お母さんと訪れた加藤慶太さん（小学2年生）は「みんなで掛け声を出した後、光がついてすごかった。また見に来たいです」と話していました。



情報科学ワールドを紹介

情報科学高校の生徒が学んでいる情報技術を紹介、体験するイベント「第3回情報ITフェア」が12月1・2日に同校で開催されました。会場には、電子部品を使ったクリスマス飾り作成やパソコンで動画編集を体験する講座などが用意。それぞれ担当の生徒が訪れた人に直接、説明していました。その他、関連する企業や大学、飲食店なども出展し、多



まちの話題や出来事を紹介します



月山山頂につながる七曲り。たくさんの方が歩くと急しゅんで曲がりくねった道の様子がよく分かります。戦国ロマンウオークの一コマ。(11月17日)

今月の一枚



◀「MESH」を体験する親子連れ。説明は担当の生徒が行います。

くの親子連れなどで賑わっていました。

3Dプリンタを紹介するブースを担当した篠田ゆうかさん（同校3年生）は「入力したデータでプリンターに指示を出し、ノズルから樹脂を出していることなどを分かりやすく説明しています。ただ、小学生に説明するのは難しいです」と話していました。

また、「MESH」と呼ばれる生活を便利にする遠隔装置を紹介するブースでは、実際にタブレットとボタンを使って体験することが可能。家族で訪れた川口鉄平さん（小学2年生）は、「ボタンでいろいろな効果音を出すことができて楽しかった。不思議な技術だと思った」と話してくれました。



◀山中御殿付近を歩く参加者。

秋深まる山城へ出陣

歴史と紅葉を感じながら月山富田城とその周辺を歩く「戦国ロマンウォーク」を11月17日、開催しました。山陰両県などから約300人が参加。整備が進み、歩きやすくなった遊歩道や登山道を進みながら山頂を含む約6kmのコースを歩きました。

境港市から3人で参加した森脇逸子さんは、「整備されていると聞いたので大会に申し込みました。月山富田城に登るのは初めてです。天候が悪くて残念でしたが、それでも山頂からの景色の良さを感じることができました」と話していました。

収穫を喜ぶ秋のお祭り

安来の農林水産物を市内外へ発信し、また、収穫の喜びを知ってもらおうと第14回安来市農林業祭を11月18日に市役所伯太庁舎で開催しました。

当日は、苗木の無料配布やどじょう汁などの振る舞いのほか、農特産品や加工品を販売。訪れた人は晴天の中、安来の農林水産物を堪能しました。

農産物重さ当て競争に参加した塩見悠高さん（小学5年生）は「難しかったけど楽しかった。安来の野菜はどれもおいしそうだった」と話していました。



▲農産物重さ当て競争。野菜はすべて安来産です。

ハガネのクリスマスツリーが登場

きらびやかなクリスマスツリーが来場者を迎えました。総合文化ホール「アルテピア」では、12月2日～24日にかけて「HAGANE ツリー」を展示。初日の2日には点灯式が行われました。

アルテピアに季節感を出したいとの思いから作成されたこのツリーは、ハガネのまち安来にちなんだ鉄製。また、市民に親しみを持ってもらおうと、装飾品は市内の保育施設の園児たちがガチャガチャのカプセルにシールなどを貼ったものを使用。市民参加型のオリジナルツリーです。



▲高さ約3m、重さ約40kgのツリー。

点灯式に参加した後藤あいさん（8歳）は「すごくきれいなツリーを見られてよかったです」と話していました。



▲収益金は全額、歳末たすけあいへ募金します。

多彩な芸を披露

地域歳末たすけあいの運動スローガン「つながりささえあう みんなの地域づくり」を推進するため12月9日に「第2回歳末たすけあい安来市民余芸大会」を開催しました。会場となった総合文化ホール「アルテピア」では、市内で活動する23団体が歌や踊り、銭太鼓、劇などを披露。日頃から練習に取り組む技で約600人の観客を沸かせました。

広瀬バンビーキッズの藤松穂乃花さん（小学5年生）は「緊張せずにいつも以上のダンスができて良かったです。これからも頑張りたいです」と話していました。

社員への健康づくりで表彰

株式会社ホンムラ（島田町）が協会けんぽ島根県支部からヘルスマネジメント事業所に認定され、このほど認定証が手渡されました。全社員の健康診断受診や建物内の禁煙、協会けんぽ主催セミナー、提携施設の積極的な利用を働きかけている点を同協会が評価。同社ではさらに労働時間の見直しによりライフワークバランスに考慮するなど、健康で働きやすい職場づくりを進めています。

本村社長は「定期的に全員と面談し、社員の声を聴いています。今後でもできることから健康意識を高めていきたい」と話していました。



◀本村社長（右）と松江保健所の林総務保健部長。



◀中国四国農政局の首藤地方参事官（左）とえーひだカンパニーの皆さん。

むら 農山漁村の宝に認定

ディスカバー農山漁村の宝にえーひだカンパニー株式会社が選ばれ、12月5日に選定証授与式が同社事務所で行われました。農山漁村の活性化とその取り組みを広く発信することを目的に中国四国農政局が選定。同社が取り組むドローンによる水稲防除作業での地域内雇用創出や地元女性等の地場産野菜を使ったドレッシング開発などが評価されました。

川上義則社長は「今回選ばれたのは、会社に関わった全ての皆さまのおかげ。今後の地域づくりにも責任を感じます」と話していました。

健康づくり活動がんばっています

県では健康長寿日本一を目指して、健康づくりに取り組んでいる県内の団体や職場などを表彰しています。平成30年度の「健康づくりグループ表彰」に市内の3つの団体が選ばれました。

このうち、会長賞を受賞した2団体は17年以上にもわたり活動を続けています。また、地域に広く知られた活動をしていたり、健康づくりにつながる活動をしたりしていることなどが評価されました。



健康長寿しまね推進会議会長賞：社日まめな会

毎月2回、社日交流センターで活動。活動のモットーは「支え合いと筋力づくり・認知症予防、そして毎回健康講話を加える。」会員は50～80歳代の約30人。



奨励賞…お元気！クラブ
毎週一回、荒島交流センターに集まり、運動やゲーム、歌などを通じて要介護にならないことを目的に活動しています。会員は22人。

健康長寿しまね推進会議会長賞：ゲート野外チーム

毎週3回、ゲートボールを楽しんでいます。地区の大会にも積極的に参加し、他チームとの交流を深めています。会員は30～90歳代の約10人。宇賀壮地区。

